



2023年8月6日連合礼拝説教文

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

《いつもともにおられる助け主》

説教者: 鄭南哲牧師

本日の聖書箇所: ローマ人への手紙8章26節-28節

(Rev. Jung nam-chul)

「26同じようにして御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくださるのです。27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、(神が)すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお変わりなく、みんなお元気でしたか。来週は台風の影響もあり、雨マークが多くなりそうです。霊肉心身共に守られ、日々主の平安で満たされるように切にお祈り申し上げます。わたくしと鄭家は、明日からオーストラリアの南の町であるアデレード日本人教会での奉仕と韓国教会での奉仕の為に2週間ぐらい行って来ます。また、棚橋家も今週火曜日から、4年ぶりに恩恵執事の韓国実家と宣教報告の為に行って来ますので、覚えてお祈り下されば幸いです。

本日は、我らに弱さがあっても日々感謝出来る理由について共に今日の御言葉を通して学びたいと願います。

結論的に言いますと、イエスキリストを信じる我々のうちに助け主であられる聖霊の神様がいつもともにおられるからです！ 聖霊の神(御霊)はどんなお方ですか。旧約原語ヘブル語聖書では、神様をいつも単数ではなく、複数で表現され書かれていることが分かります。あれこれあちこち神の存在が多いと意味では決してなく、それは三位一体の神(父なる神、御子イエスキリスト、聖霊の神)の特性を現して下さっていることが分かります。

三位一体となる神について分かりやすく説明をする時に、父なる神は全てを造られ、全ての歴史の主人であられる創造主であられる神様である、御子イエスキリストは人を救う為に、人間の体を持ってこの世に来られた救い主であられる神様であられ、聖霊の神、御霊は、我らの助け主なる神様として、我らが救い主イエスキリストを受け入れるように導き、益々キリストの似姿に変えられるように聖化のために神の知恵、力を与えて下さるお方であるとよく説明しています。

本日の聖書本文であるローマ人への手紙も、1章~8章までもまず三位一体の神様について書かれていることが分かります。ローマ人への手紙1章1節~3章20節までは父なる神様について、ローマ人への手紙3章21節~7章25節まで神の御子イエスキリストについて、ローマ人への手紙8章1節~39節まで御霊なる聖霊の神について書かれています。特に、ローマ人への手紙1章~7章までは聖霊の神様(御霊)についてはたった2回しか記録されてないですが、今日の本文8章だけで何と19回ほど書かれています。我らが一生感謝して行くためには、何よりも聖霊の神様はどんなお方であり、どんな働きをなされるお方なのかを知ることがもっとも大切です。今日の本文はその内容をよくあらわして下さい。

1. 助け主なる聖霊の神様はいつも我らとともにおられ、我らを助けて下さる。

今日の本文26節に「**御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくださるのです。**」と教えて下さっています。

御霊すなわち、聖霊の神様は我らを助けて下さる神様であられ、イエスキリストもその聖霊の神様について我らの為の「助け主」だと教えて下さいました。イエスキリストはヨハネの福音書16章7節、14章16・26節、第一コリント人への手

紙12章3節に御霊についてこう教えて下さいました。「ヨハネ16:7しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。」、「ヨハネ14:16そしてわたしは父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。」、「ヨハネ14:26しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

そして、パウロも聖霊によらなければ、だれでもイエスキリストを自分の救い主として受け入れ信じる事が出来ない、つまり、イエスキリストを信じられるように助け、神の御救いを受けられるように導いて下さるとも書かれています。「(第一コリント12章3節中)御霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。」

使徒パウロは、苦難の中にいるローマにあるキリストを信じる教会の聖徒たちに、あなたがたのため、あなたがたといつともにおられ、助けて下さる聖霊の神様を忘れないように強調し伝えて下さっています。

ここで、「助けて下さる」という言葉のギリシャ語の原語聖書では「シナンティラムバネタ」という単語で、その意味は「他の人の手を掴み取ってくれる」という意味を持っています。我らは自分の力ではどうしも出来ず、弱くて限界の感じてしまう時があり、気抜けてしまった時に自分の大切なことを諦め手放そうとする時があります。大切な自分の人生、大切な関係、大切な人、大切な神様と関係を保つ力すらなくあきらめようとする時があるでしょう。その時聖霊の神様は、変わらず我らの手をしっかり掴み取って下さり、弱気のわれらを助けて下さる聖霊の神様でおられることを教えて下さっています。

「わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。(イザヤ書41章10節)」

このように聖霊の神様はキリストを信じる我らといつともにおられます。そして、弱い我らを常に助け、慰め、知恵を与え、霊的な力を供給して下さる助け主として働いておられる神様があられます。

① 我らの弱さを知っておられ、助けて下さる聖霊の神

26節に「御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくださいますのです。」

今日の本文では、人は弱さを持っていることを御霊なる聖霊の神様はご存じであります。聖霊の神様は、我らがいくら強いふりしても、何の問題ないふりしても、人の弱さ、人のすべての弱さと限界のある存在であることをご存じであるお方です！ここで、「弱い」という意味は、ただ肉体の力のない状態だけの意味ではなく、肉体の弱さと共に心や霊など人のあらゆる弱さをあらわす単語です。人は体の弱さを持っているだけではなく、心の弱さ、霊的な弱さ、信仰の弱さをも持っているのではありませんか。

我らは、2019年12月中国の武漢から始まったこの一つの新型コロナウイルスによってなかなか歯止めがかからず、約3年間ずっと苦しんで来ました。ワクチンだけ開発したら、そして、接種したら、もうコロナは終息(しゅうそく)されるだろうと期待したものの、もちろん、ワクチンのおかげでコロナの重症化率が大幅下がって来てとても助かりましたが、完全に防ぐ保護膜にはならない限界もよく体験して来ました。新型コロナウイルスのほんの少しであって、医学報告書によりますと、医学者たちによって少し見解は違いますが、現代人がかかって病んでいる病の種類が約75,000ほどある見たいだし、これからも見たことも聞いたことも変異ウイルスはいくらでも発生するかも知れません。人がいくら、毎日健康管理を徹底的にし、マスクをつけるにしても、完全に防ぐことはできないことを我らはよく知っています。

ところが、実は、世界でもそうですが、日本でも体の弱さより、心の悩みや苦しみや問題はもっと深刻です。たとえ、日本

だけでも、昨年心の悩みや苦しみで、自ら命を絶ってしまっている自殺者数が昨年一年だけで、今までコロナに感染され、亡くなられた人より上回って、警察庁と厚生労働省は昨年の自殺者数をもっと多かったのです。

人は体の弱さ、心の弱さなど色々な弱さをみんな持っているのは当然です。それだけでしょうか。今年もここまで、我らの周りでは飢饉、地震、浸水、自然災害、事故事件など多かったのではありませんか。我らの人生は、まさに苦難の連続だと言っても過言ではないかも知れません。そんな中で今日までみなさんご自身とご家族が健康でここまで守られているだけでも決して当たり前なことではなく、どれほど神の恵みであり、感謝すべき理由があるでしょうか。

② 我らの祈りを通して助けて下さる聖霊の神様

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

それではどうすれば、具体的に今もなお我らと共におられる聖霊の神の助けを頂き、体験出来るでしょうか。

26節に「御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなして下さるのです。」

「何をどう祈ったらよいか分からないのですが、」

イエスキリストを信じる人はだれでも祈るでしょう。

ところが、みなさん祈るたびにいつも答えられているでしょうか。

祈って答えられる時もあるれば、答えられない時も多くあったと思います。

みなさんはどうして祈っても答えられなかったと思いますか。

その理由について今日の本文では、「何をどう祈ったらよいか分からないのですが」だと書かれています。

イエスキリストを信じている方なら、祈りの重要性や必要性はよくご存じでしょう。

ところが、問題は何を祈るべきであり、どうやって祈れば正しいのかはよく知らずに祈る方々もいらっしゃると思われま

それにイギリスの体系的な聖書学者だったウィリアム・バークレーという先生は、

我らがよく間違って祈っている理由について2つを指摘しました。

①我らは将来を見通すことが出来ないため、間違っ

て祈ってしまう時がある。
②我らは人生の全てを理解し、状況を見極めることが出来ない為、与えられた状況の中でどうやって祈ればいいのか、正しいのか判断は難しく間違っ

て祈ってしまう時があるのでは

ないでしょうか。このことに対して、新約聖書ヤコブ人への手紙4章2後半-3節では「自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。」と教えて下さっています。

大切なのは、聖霊の御霊は、我らが神様によく祈ってないのもご存じであり、祈ろうとしても間違って祈っているのをご存じであるため、そんな我らを憐れんで下さって、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなして下さっておられるのです。今日も、これからも私たちがこの事実を忘れなければ、どんなに悲しくて大変なこの世の中で我らがどんなに弱くても、神の御前で日々感謝を見失うことはありません。

今日の本文の26節には、聖霊の神は我らのために、我らを助けるために、うめきをもって「とりなして下さる」と書かれています。この「とりなして下さる」(NASB(New American Standard Bible): intercede)」というギリシャ語は「フィペレンティンカノ」で、「仲裁(ちゅうさい)する」、「ある人のそばに立ってその人のために嘆願する・弁護する」の意味を持っている単語です。我らの状況、事情すべてをご存じあり、我らの味方になって代弁して下さるのです。

なので、聖霊の神様は、父なる神と我らの中の仲裁者となって、言葉に言い表せないほど、我らの為にうめきと嘆願されながら、我らを支え、我らの祈りを助けて下さるという意味です。

弱くて、疲れて祈れる力すらない時に、祈れる力を与え、どう祈れば良いのか分からない時、神の御心を悟らせ、御心に添って祈り続けるように聖霊の神様は働いて下さいます。

C.H.Dodd という神学者は、聖霊の神様に対し、こう述べました。「聖霊の神から霊的な力を頂ける大切な通路が何か知っているのか。それが祈りである。聖霊の神は、我らが祈る時に働いておられ、祈り中で我らを強め、助けて下さるのだ」
「私が呼んだその日に、あなたは私に答え、私のたましいに力を与えて強くされました。(詩篇 138 篇 3 節)」
「主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに主は近くられます。(詩篇 145 篇 18 節)」
「あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。(ヤコブの手紙 1 章 5 節)」

マタイの福音書7章9-11節に「9あなたがたのうちのだれが、自分の子がパンを求めているのに石を与えるでしょうか。10 魚を求めているのに、蛇を与えるでしょうか。11 このように、あなたがたは悪い者ではあっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っているのです。それならなおのこと、天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか。」

本文27節に「人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくさるからです。」だと書かれています。この御言葉の意味は、父なる神は御霊なる聖霊の神の願い、思いを知っておられ、聖霊の神も、父なる神の御心を知っておられ従って、御心がかなえられるように、我らの祈りを導き、助けて下さるという意味です。「人間の心を探る」という意味はギリシャ語で「エラウノン」という言葉で「心を買って見ておられる」という意味であります。

聖霊の神様は我らの今どんな心の状態のかをすでに貫き知っておられるお方ですから、どう慰め、どう助けられるか、どう解決できるのか、どう回復できるのか我ら自身よりもご存じのお方です。

聖書でヨセフやモーセも、パウロも自分の弱さを通して、苦難の時を通りながらも祈り中で、神の御心を、神のご計画と深い摂理を知ることが出来、使徒パウロは、こう告白しました。

「9しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。(コリント人への手紙第二12章9-10節)」

聖書の時だけではなく、今も聖霊の神は同じく働いておられます。祈りの中で、神の御心が何なのか悟らせ、思い起こさせ、神の知恵を与え、ついに、我らを通して神の御心がすべてなされ、祈りが答えられるように聖霊の神様は働いておられるのです。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！我らが弱いけれども、ひとりぼっちでは決してありません。いつも助け主なる聖霊の神様がともにおられます。そして、いつでも祈れば、聖霊の神の助けを頂けます！イエスキリストを信じるクリスチャンたちも同じく人生の苦難の時もあり、苦しみ悩む時もあるでしょう。しかし、世の人々と違う、信じる人々の大きな一つの力は、いつでも祈れることです！祈りを通していつでも助け主なる聖霊の神の助けを頂けます。自分勝手な祈りではなく、聖霊の神に頼りて、祈れば、我らの状況を全てご存じの神様が必ず父なる神の御心がかなえられ、答えられるように聖霊の神は私たちを助け、導いて下さいます！

26節に「御霊も、弱い私たちを助けて下さいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくさるのです。」

2. 聖霊の神は結局すべてのことをともに働かせて益となるようにして下さるからです。

「28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、(神が)すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

普通の親は自分の子どもたちが親の時代より、物事がうまくいけるように子供たちのためなら、何でもやってあげようとするのに、天におられるあなたがたの父なる神は、ご自分に求めるすべての人々に良いものを与えてくださらないはずがあるのかとおっしゃっています。その約束の御言葉が今日の本文28節です。「**28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、(神が)すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。**」この御言葉を違うように表現して見れば、時には我らは神様が働いておられるすべてのプロセスをきづくことができなくても後で結果を見れば、神様はわたしのために、どのように、どれほど働いておられたのか知ることになるでしょう。

愛する CPC 信仰の家族のみなさん！今しばらく、なぜこんなことが起こったのか。こんな問題にぶつかったのか。

神様はどうしてすぐ答え、助けて下さらないのか分からない時があるかも知れません。

しかし、みなさん！神を愛し、従おうとする人々たちには聖霊の神はすべてのことを働かせて、必ず益として下さるお方であることを我らも覚えれば、今しばらく願わない、理解できない状況であっても、後で聖霊の神様がどのように働いておられ、何のためだったのか御心を悟られる時が必ず来ますので、安心して下さい。ついには我らにすべて益として下さることを信じ、神に委ね続け、とことんまで祈り続けて見て下さい。

ですから、焦らず、急がなくても大丈夫です。ご安心下さい。なぜですか。御霊なる聖霊の神様が、今も我らとともにおられますから、そして我らを必ずかえりみて、我らの弱さを助けて下さるからです！ 祈って見ましょう。どう祈れば良いのか分からなくても、神の御心が全てなされ、答えられ、すべてのことを働かせてついに益となるように祈りの中で必ず、助けて下さることを体験出来ると信じます。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。(ピリピ人への手紙4章6-7節)」アーメン！

さあ、みなさん！始まったこの8月、始まった今週中にも今日のこの御言葉を握りしめて、いつでも、どんな時にも弱い我らとともにおられる助け主なる聖霊の御霊の助けを實際常に頂けるように、個人的に祈り、ともに祈り合いながら生きましょう。助け主なる聖霊の神がいつでも皆様と共におられ、祈るみなさんにいつも助けの御手を差し伸べ、守り、神の平安でみなさんの心と思いを、たましいと体を力強く見守って下さるように、主イエスキリストの尊い御名によってお祈りいたします。アーメン！

